

## 平成 2 8 年 度 第 1 回 日 南 町 総 合 教 育 会 議 会 議 録

招集年月日	平成 2 8 年 4 月 2 7 日
招 集 場 所	日南町役場防災会議室
開 会	午後 2 時 3 0 分 教育長
出席委員	増原町長 丸山教育長 福田教育委員 中村教育委員 川上教育委員 須田教育委員
欠席委員	
オブザーバー	中村副町長、高見総務課長、安達教育委員会次長、黒見日南中学校長、吹野日南中学校教頭 木下日南小学校長、大谷保育園副園長、段塚室長、橋本室長、花倉家庭教育推進員

議 事 日 程		議 事 の 経 過
日程その他	発 言 者	発 言 の 要 旨
報告 協議	教育長 町長	<p>※日南町教育委員会重点目標、日南町教育の目標について資料により報告</p> <p>新年度第 1 回総合教育会議ですが、前年と同じではなくて、より一歩高め上に上げていく事が必要と思っています。</p> <p>今、子供連れの方の転入が増えています。新学期になってからは、Uターンが 5 組、I ターンが 2 組、5 月にも転入予定があります。保育料が無料になったためとは思いませんが、総合的に田舎志向と言いますか、都市部での過度な競争に疲れたお子様方が日南町に来ると、不登校だった方が登校されるようになったという話も聞いています。環境が変わるといのは一番良いと思っています。日南町は、なかなか環境が変わらないといのは、ある意味不幸なこととして、保育園は 3 園ありますが小学校、中学校と一緒にしますので、人間のヒエラルキーと言いますか価値観と言いますか、A さんは運動ができないとか B さんは頭が良いとか、それがずっと小学生の時から繋がれてきて、いくらなりたい自分であっても変えるチャンスがないというのが、日南町の一つの悪い点だと思っています。良く言われることが、日南町の子ども達は、高校になると伸びる。なぜ伸びるかということ、なりたい自分になるからだと思っています。そういう機会を教師や親も含めて、その子の良いところを褒めてやったり伸ばしてやったりし</p>

て、悪い所があったらたしなめてやる、その子が変わるチャンス、可能性と言うものをできるだけ伸ばしていく教育が必要ではないかと思っています。閉鎖的な部分でのマイナスはありますが、11年間ぐらい子ども達をみることが出来るわけです。その中で伸びる機会を見つめなおしていただきたいと思います。U・Iターンが増えてきだしたというのは、良い刺激になって新しい友達ができたり新しい波紋が広がるのではないかと期待をしていますので、できるだけそのように方向付けとしては持っていきたいと思っています。これは、地方創生の重点戦略の結果数値、指標と言われるものであります。国保でも健診率を上げないと交付金を下げますという話がありましたが、どこも健診率が上がらないので結果的には交付金は下がらなかった事があります。それは本当に良いのかなと思います。一度約束したことは大人が守らないと子どもも守らない。皆が守らないから自分もさぼっても良いんだみたいな世の中になってはいないか。そういうのは嫌だと思っています。教育委員会の中にも地方創生のKPIというのがあります。例えば、英語検定を中学3年生で30%取得する。それはやってほしいわけです。地方創生の交付金は2分の1負担になりましたので、日南町の場合、過疎債を使った方が70%ですからはるかに良いわけです。交付金もらってさらに過疎債を使うと15%の負担率で物事ができるわけです。85%の補助率で出来ることを考えるとやはり有利だと思っています。そういう風にして日南町は財政を豊かにしてきた訳ですけども、やはりそれがどうなろうと、KPIで30%とりますと言ったら今年あたり50%取って来年は60%にしようとか、どんどん目標を高い所に置くことが必要と思っています。是非とも今年の内にはKPIの30%を超えてもっと高い所を目指そうと、次は3級を50%目指そうとか、それぐらいの覇気をもった子ども達にも育てたいと思っています。それは勉強や英語だけではないですけども、言いたいのは、3月議会では、義務教育だから全員行かせれば良いと仰った方もおられますけども、高校受験で行きたい高校に全員行けるかというところではないですよ。既に選択が始まっている訳です。そういうのを早く経験させておかないと、受験だけで人生が決まってしまうということでは非常に寂しいと思います。是非とも今年は選択をして子ども達にも準備をさせて行かせてやりたい。

行かせる理由は英語だけではなくて、知らないところに飛び込むような勇気が子ども達に欠けてきていると思います。大人以上に手堅い子どもが増えている。今回もお母さんと離れたくない、ゲームができないのは困る、というアンケートがあったので、そういう考え方もあるのかなと思いました。大学等で

もグローバル化していて、海外の大学に大学から無償で留学させますといっても、手を上げる子どもがいない。なぜかというと、未知なものに対して怖がる。それは、どんどんグローバルではない世界になってきていると思っています。わからなければそれで良いみたいな隠ぺい体質とか内向きの体質ができてきているのではないかと思います。もう一つはヒューマニティーというものを考えた時に、今度海外派遣報告会がありますが、その時に多分ホームステイで優しくされたり、渡航先でいろんな人にとって優しくされたりして、人間てすごいヒューマニティーがあっというんだなあ、人間て良い生き物だなと感じたと思うんですね。人間て優しいな、自分もそういう人間になりたいなという人間を育てる、それが教育の第一歩だと思います。そういう風な子ども達が一人でも増えることを願っています。子ども達が立派な発表をすると思うので、それを保護者だけではなくて町民の方々だったり、これから海外派遣へ行こうとする子ども達であったり先生方であったり、うちの子やるじゃないか、一度行かせてやりたいな、自分も行って経験してみよう、そういう風な子ども達を育てるという趣旨で進めていただきたいと思っています。

今考えているのが、高齢者の方々の生きがいづくりをどう考えるのか。今日南町では、高齢化率が49%で、半分の方々が65歳以上であります。65歳は、日南町では現役です。60歳からこれからの人生をどう考えるか。終活という言葉があります。遺書といますか、自分が亡くなる時にどのように亡くなるかが終活だと思いますが、私は終活は二つあると思います。亡くなる時の終活と、60歳で定年または65歳でリタイヤしてあと何年生きるかという考え方。多分殆んどの方が20年生きる訳です。その活動をどうするか。それが第1の終活だと思います。そういう終活があっという間の最後の終活があると思います。0歳から20歳の子どもの頃の生活は、殆んど断片的にしか覚えていません。だけど、60歳からの20年間は、しっかりした考え方を持っていて人生経験も豊富で意識が常にある訳です。そういう方々の終活をフォローする体制。人生学園とかグラウンドゴルフも良いですが、農業・趣味・様々な知識、そういうものを何とかもう一つの人生に活かすことができないのかと考えています。学校で支援してしっかりした終活をされている方もおられますが、ぼやっと毎日を過ごしている方が多いのではないかと推察します。その辺をうまく生涯学習の中で第1の終活を考えることをそれぞれやっていただいて、地域での活動ではなくて町全体での活動に広げることができないのか。地域ではやはり昔と違って今の高齢者の趣味が多彩ですので、何か生きがいというか町のために役に立つ、そして自分が楽しい、

そういう終活を提供できるような教育委員会であつたらいいなと思いますので、考えていただきたいと思います。

もう一つはICT学習です。ハードとしては、県下でもトップだと思いますが、その割には成績が伸びない。先生方もうまく使っているのかな、使いたくて使っているのか。町からきているから使わないといけないと思っているのか。その辺も含めてICT教育のあり方、どういう風に使うのか先生方で勉強する機会を設けても良いのではないか。各学年主任ぐらいで先進地に行って学ぶとかそういう事もあって良い。ハード先行でソフトが次で先生方の気持ちが3番の順番になってはいないかという気がしています。

ふる里教育とよく言われます。鮎や鮭のように帰っておいでと成人式や卒業式で言われる方がおられますけども私はそうは思っていない。どこかで日南町というものをどこにいても良いから自分は日南町のために役に立つ人間になりたい。何かあった時には日南町の役に立てるような人間になりたいというように子どもに育ててほしい。子ども達の夢を阻むようなことをしてはいけないと思っています。子ども達は未知なものに向かっていくようなチャレンジスピリッツを持ってほしい。例えば鳥取県西部地震のようなことがあった時に真っ先に駆けつけて家族のために自分の家を片付けるような子どもになってほしいと思います。これからは、産まれた所が住むところではなく、自分が住みたい所が住む所だという時代になると思います。その時に選ばれるような町になっていくために、今いる人間は、一生懸命努力すべきであって、今から飛び立とうとしている子ども達の羽をむしって飛び立てないようにするのは、私たちの仕事ではない。私たちががしなないといけないのは、できるだけの子も飛び立つように、そして帰ってくる子が帰ってこれるような暖かい家をつくりそれを守る事だと思います。そのような気持ちで子育てを考えていただきたい。できるだけ大きな世界に羽ばたいていくような子ども達をつくっていただきたい。

とりとめのない話をしましたが、特にKPIを含めた指標をしっかりとっていただきたいと思います。第1の終活という高齢者の学習にも力を入れていただきたいと思います。

教育長  
委員

町長からいろいろな話がありました。教育委員さんからの意見があれば発言を求めます。

英検は具体策を検討しないといけないと思います。

中学校長

学校では、英検などいろんなものに挑戦させて学力向上を目指して行こうと年度当初、職員と確認をし

	<p>て、テコを入れていこうと話をしてしています。英語の教員もベテランの域に入る本務者が一人来ましたので、英検等についても子ども達が受けてみたいな、チャレンジして5級でも受ければ次頑張ろうと思えるのではないかと考えています。昨年は1年生が5級にチャレンジしているようです。そういう所で子ども達の意欲を向かわせて行きたい。特に英語について言えば意識をしながら向かっていきたいと思えます。</p>
委員	<p>漢字検定でもいいと思いますが、これまでは、ポスターが貼ってあるだけだったと思うんですね。これは受けるんだよというぐらいの事があっても良いと思います。以前は、補助をしても良いのではないかとの話も出たと思います。</p>
町長	<p>町のバスで行っても良いと思います。</p>
中学校長	<p>検定は学校会場でできますが、英検の3級になると2次試験は米子で受けることになります。受験料が結構な金額なので、昨年は教育委員会でも話題になったのだと思います。英語に関しては、出題の範囲が、1年生修了程度が5級というのがあります。4級に向かうには、学校の授業だけでは出来ないところが出てきます。学校でこつこつやっても中一で4級3級にチャレンジするのは現実問題として難しいので、最終的には段階を踏みながら3年生修了程度が3級なので、3年の1学期2学期では、多分だめなんですよ。そういったこともあります。</p>
町長	<p>江府町が塾を作りましたね。どう思われますか。塾に行ったから成績が上がるというものでもないと思いますけども。塾は学校と反比例で授業をしっかり受ければ塾に行く必要ないと言われるのも当たり前です。地方創生版で江府町はやられたんだけど、米子の塾に慣れているからと米子に行く子もいるみたいです。</p>
委員	<p>個人的な意見ですけども、塾に行ったからといって学力が伸びるわけではないし、個々のやる気だと思います。江府町も全員が行っているわけではないので、やる気がある子が塾に通っているのかなと思います。半分は親の満足もあると思います。日南町に塾ができたとして、当初は集まると思いますが、本当に成果が上がらなければ、やめていく子が多いと思います。本当にやる気がある子は米子まで塾に通っています。</p>
委員	<p>学校現場としては、個人差がありますが、子ども達が解るようにするのが当然だと思います。学校の先生方のモチベーションはどうなのか。しっかりやるんだけど、まあ塾があるからという気持ちであっ</p>

ては困る。子どもも本当にやる気のある子は授業でもきちんとできる。子供一人を取り巻く環境が気になります。一人一人を見てもらって、どこでつまづいているのか。ちょっとしたきっかけで子どもはやる気になります。本当に小さいことなただけでも、それがやる気になった時には、子どもは力を出すと思います。年度が新たになった時にもう一度一人一人を見ていただいて。日南の子どもは伸びると思っています。

町長

日南町の家庭環境にも原因があると思っています。共稼ぎが非常に多い。女性が活躍し男性と共に働いて、男性は家に帰って休んでいるが、女性は買い物をしたりして帰宅するのも遅くなる。子どもをお父さんが看ているわけではない。そうすると子どもを看る人がいないと思います。遅いときには9時ぐらいにご飯を食べてそれからテレビを観る家もある。そうなるとう勉強もできない。家庭の中で誰かが宿題をみてやっているとか褒めてやるとか、環境づくりが薄れているのかな。どうにか一時間でも親子で勉強する時間があつたらいい。昔は三世代住んでいたもので、帰つたらお婆ちゃんが食事を作っていてくれましたが、最近は核家族が多いので、お母さんが作らないといけない。

委員

テレビを観る時間とかを差し引くと、家で勉強する時間がない。家庭環境も一つの課題かなと思います。あいさつをすることと校歌を大きな声で歌う事を子ども達に話されたようですが、当たり前前のあいさつとか決まった時間に起きるとか基本的な生活がどうなっているのかなと思います。それも含めて学習のベースになると思います。学力は、調べたいとか学習したいとか知りたいとか欲求が合った時に力がついてくる。家庭もわが子だけでなく日南小学校の子どもはどうなのか、どんな課題を抱えていて親としてどうしていかないといけないか今考えてみるべきではないかと思います。おそらく日南小学校の子はどこかでうまく歯車がかみ合わなかったか、やろうとしたときにトラブルがあつてできなかったか解りませんが勉強する習慣がついていない。学校で学習したことを家庭の学習にどうつなげているのか。学校で教わったことは家で学習に活かされていないと思います。日南の子もできると思います。学校の勉強を家にうまく繋げるにはどうすれば良いか。そんなことまでと言われるかもしれないけども、勉強はこうするもんだとか、予習はこうしなさいよとか、子どもによっては、具体的な事まで向き合つてやらないといけない。

9年間はメンバー構成が変わることなく、人間関係も固定化されていますので、ひょつとしたら私は中学校から別の中学校に行きたいという子が出てくるかも知れない。それは大きく影響すると思ったこと

があります。子ども達の会話の中に、死ねとか殺すとかの言葉が出てくるんですね。単に言葉が悪いとか、その子が特別ではなく、影響力のある子がそういったことを言うと負の連鎖というか影響を受けて何も言えない子もいるし、いびつな世界を作ったりしていることは怖いと思います。テレビやゲームで軽く言っているだけだということで許して良いのか。これは重大なことと考えて向き合わないといけないのではないのでしょうか。

委員

苦しいこと困ったこといろんなことがあるかもしれないが、そこを乗り越える力が落ちてきているのかな。大変な環境にあってもそこを乗り越えないといけないと思います。乗り越える力をどこで付けてやるのか。どういう風に家庭で学校で地域でやったら良いのかなと思います。

教育長  
室長

話題を替えて、海外派遣について事務局からお願いします。

人間性というかそういうのに触れているなど感じましたし、最初は勇気がいったけども環境の中で過ごすことによって積極性がでてきたと感じました。何より小さな成功体験が沢山あったのではないかなと思います。そういうことが子ども達の自信になったと思います。13日の報告会で、子ども達を感じたこと思ったことを話してくれると思います。

教育長  
室長

次に行くとしたらどのような予定になりますか。

今年度の計画としては、エクスタイン中学校と交流したんですが、是非続けたいと思います。受入のことを考えると3月が受入しやすいと聞いていますので、その方向で進めています。

町長

今年は、40人ぐらい来られるようですが。

室長

7月6日から7日の二日間、引率も含めて40名。今回交流した中学校の子ども達も来ます。

教育長

終活のことですが、生涯学習で模索しながらやっておりますが、人生学園についても変えた視点でやっていかなくてはならないと担当者とも話をしているところです。なかなか見えないところもあるのでうかなと思うところもあります。

委員

終活対象の人口は、増えているのに老人会は苦勞している。昔のように若い人は青年団、女性は婦人会、老人は老人会という分け方はこれからは無理かなと思います。毎月ある日南町の町民大学を見ると、それなりの人が出ている。ああいうものを広げる。講師に気を付けてうまく回りだせば違うようになるのではないかと感じています。人生学園はなかなか増えない。ああいう形で組織化することにおさまらない人達が増えているのかなと思っています。子供以上に難しいかもわかりませんね。

教育長 副町長	<p>基本的にはニーズ・要望が一番だと思います。</p> <p>町民大学に参加されるメンバーは、色んな分野で毎月講演されるんですが、高齢の方でかつ同じ人が色んな角度で、またこの方も来ておられるなという人が割りと多いのかなと思います。来られる方は一生懸命勉強したい意欲が感じられる方が多いと思います。輪を少しずつ増やしていくことが終活につながるのかなと思います。</p>
町長	<p>町民一人一人がPRマンだと思っています。友達から友達へ広がっていくのがICTの良い所。町報に載せたから防災無線をしたからフェイスブックに載せたからといって伝わるものではない。幾つものものを広げてやっと伝わるがあったり、情報をどんどん前向きに出して行って、気持ち合う人達が集まってくる。そこで話をすることで例えば子育ての苦労を話しながらよりよい子育てが生まれてくる。そういうようなためにやってほしい。感心するのは、日野上の95歳の方が日本ミツバチを飼ってラベルを全部自分でパソコンで作っている。それを道の駅で売ろうとするたくましさ。そういう風なものを紹介できたら良いかなと思います。それが教育ではないのでしょうか。自分の生き様も人の生き様も紹介して日南町に住んでいる方をクローズアップするのも教育だし、そういう方と話すことも教育。そういうものが大切です。学校教育でも有名な方を呼ぶのも良いけども日南町で頑張っているおじいさんが、そういうことをやっていることを知ること自体、人間てすごいなあと立派に思ってくれる子ども達になってほしい。</p>
委員	<p>私も見習わなければいけない。ここ数年学校にも、もっと言わなくてはならないことがあるのではないかとって、一頃よりは多くの情報が出されている。例えば校内マラソンです。最初のころは観客がいなかったですが、去年の天気の良い日には結構観客がありました。保護者の関心事になるし子どもも頑張りに繋がる訳です。保育園もそうですがいろんなことをもっと言うべきだと思います。防災無線・町報で広報しても見聞きする人は一握り。防災無線も一世帯一台では聞こえない部屋がある。ホームページも変わっていないケースがある。そういう点は頑張らないといけない。それが保護者を変えることになる。校内マラソンは沢山の人を集めたいなと思っています。</p>
町長	<p>私も校内マラソンの放送をするように言いました。町民には何故子ども達が走っているのか分からないので、放送すれば見かけた方は応援してくれると思います。学習発表会もあまり放送していない。</p>
委員	<p>成人式も放送して、保護者等一般参加者が増えてきました。もっとすれば、おじいさんおばあさんも行</p>



	くと思います。
町長	今までは、成人式を知っていても参加の呼びかけがなかったので、行かなかった。保護者も成人式に行きたいのだと思います。コールやまばとに町歌を歌ってほしいと思います。成人式は、成人者を町が祝うのです。
教育長	昨年も頼んだと思いますが、お盆でなかなか都合がつかないと聞いていますが、今ぐらいから調整すれば良いかもしれません。
委員	保護者に招待状を出せばもっと増えると思います。
町長	今日は、保育園の入園式がありますとか、学習発表会があります近くの方はおいで下さい。と放送したいのです。子どもの姿が見えなくなったと聞きますが、子どもの集まっているところに来てほしいと思います。どんどんPRすることで行ってみようかと思うようになる、それで良いんです。子どもが一生懸命やっている姿を見ると感激します。閉鎖的な教育委員会であってはいけない。保育園はフェイスブック等頑張っていますね。
副園長	個人情報もあるので、保護者に了解を取り直して子どもの顔を出しています。
町長	子どもが笑っている姿を見て、嫌だと思える親はいないと思います。
委員	親は親の教育が必要。今の学校は遠慮していると思います。無茶なことを言われたら言い返すぐらいの学校であってほしいと思います。
総務課長	子ども達の表情を撮ってあげることは、本人たちが見てうれしいことですが、個人情報保護もありますので出してあげる努力も必要な時代です。
町長	中学校だと思いますが、名前の無い作品展というのがありました。親が子どもの作品を当てるというものです。自分の子どもがどんな字を書くのか知らないと思います。親子・夫婦の繋がりが弱くなっているのではないか。ワクワクにちなんで、自分の親の仕事場に派遣してほしい。それで、親がどんな苦勞をして自分達を育てているかを見てもらうというのがあっても良いと思います。かつては、農業や林業で親の仕事が見えていた。今は親の背中が見えない、親も背中を見せない。親も子どもに見られているからと意識するから一生懸命働くというところもあったと思います。そういったことが必要ではないかと思います。
教育長	教育委員さんから町長に対して協議事項等あればお願いします。

町長	<p>今、教育委員会の中で、いじめ対策推進法で、小学校も中学校もいじめ対策の組織はありますが、重大事案が発生した時には、法的にいじめ問題調査委員会を組織しなければなりませんし、町長も再調査組織をつくらなければならないという法律はあります。その点を西部7町村の次課長会で練ってもらいました。いじめ問題委員会で一番問題であったのは、医師・弁護士を雇うのは町村では難しいので西部町村で同じ人を抱えておこうということでのいじめ問題対策協議会ができました。いじめ問題調査委員会の組織については各町村で条例を設定してくださいということで話が進んでいます。3月議会で3町か4町除いたところで設定しています。日南町ではできましたら6月議会で条例化を図りたいと思います。この条例を作っておくと報酬等明確で早い対応ができると思いますので、条例化をしたいと思います。小中学校のいじめ防止組織を設置して、それがどういう働きをするのかをまずしっかりやった上での話ではないのかなと思います。結果的に不幸だけでも重大事案が発生しましたという時の話で、条例化しても良いですが、町民・保護者に対して説明しないといけない所は、小中学校のいじめ防止組織の説明をしっかりして話し合ってもらう事、それが先決ではないですか。</p>
中学校長	<p>今町長が言われるように、小中学校の中に防止組織を作っています。これは、国のいじめ防止対策推進法の中で、起こってからではなく、起こらない対応をしっかりやっていきなさいという法律の基で設置して基本方針等を作成して取り組めということで、日南町も町・小中学校で基本方針を策定して設置をして、この防止組織をやっています。常日頃そういうことが起こらないような生徒指導的な対応をしています。その中でももし不幸にも事案が発生した、或いは時には、そういう問題を調査する委員会を設置しなさいと法律で義務付けてあるので設置をしなければなりません。その際に、専門家の配置が必要であることが規程してあるものですから、教育長も言われたような単町で配置をするのは難しいということで西部7町村で検討してきました。</p>
町長	<p>町民とか保護者とかに説明しないといけない所は、どういういじめ防止組織を作って、どういう活動をしているかということをしっかり説明した上で、万が一起こった時に、こういうことをします、法律で決まっていますので必要です、という話をしないと町民がわからない。</p>
総務課長	<p>法律をみると、第22条に学校は防止する組織を置くものとする。これは置いてありますか。</p>
中学校長	<p>置いてあります。</p>
総務課長	<p>重大事案の対処ということで、起きた時にはそういうものを行うということで、条例を定めなければな</p>

教育長	らないということではないですね。
総務課長	早く対応できるということです。
教育長	置くとすれば法律第22条において、学校では防止策を行うものとなっているが、仮に発生したときには28条に基づきこういうものを開くものとするということですね。
教育長	言われた通りです。PTAとか学校の懇話会とかで、今どうなっていて、どういう活動をしているのかを確認してPTAにも話をしておかないと、一気に町民に話をしてもどういうことかわからないのではないかと感じましたので、その部分が必要だと思います。
委員	アンケートをしていましたが、この趣旨ですよ。
中学校長	小中学校に置いてあるいじめ防止対策の組織の取組の一つという捉え方で、日常的に子どもの実態を把握することです。町長が言われる防止にむけたものです。基本は防止だと思います。
委員	しかるべき所で説明するとすれば、具体的な対策としては、この会で年数回アンケートをして兆候をつかむ努力をするということですね。
中学校長	日南町の場合は、町としても基本方針を策定していて、それを基に小中学校のいじめ防止対策基本方針を作っていますので、それを見ていただければ、どういう取り組みをしているか理解していただけたと思います。
教育長	先ほどの意見を踏まえて教育委員会で審議したいと思います。
町長	条例だと不慮の事故に対応できない。いじめも色んなケースがあるので条例が良いのかな。弁護士はどんなケースで必要なのですか。
家庭教育推進員	不測の事態とは自殺の場合ですね。自殺がいじめに関係しているか関係していないか調査するとなると教育委員会や学校は常に弱い立場におかれます。そのために弁護士にお願いしていただくということです。いじめで、私たちが一番注意しなければならないのは命を落としてしまうという事です。日南町に事例があるのかと言われたときに、ない、と言いたいだけでも、一部の保護者は何かあると、いじめだとしつこく言って来られたこともあります。いじめについては、慎重な取り扱いが必要だと思います。条例では動きにくいのであれば、足並みを合わせた形での対応も必要かなと思います。
町長	弁護士等も条例がなくても依頼できる訳ですから。
教育長	教育委員会関係で相談する弁護士、行政関係で相談する弁護士があります。

総務課長	柔軟性を持って動きやすいようにすれば良いと思います。前段としては、学校における防止機関がしっかり機能していることだと思います。委員会の設置は、問題に対処するのと今後そういうことが起きないことへの対処の二つの柱のようです。学校での機関の設置との連携がどういう具合にできているか、しっかり明記する必要がある。日南町らしい形を作れば良いと思います。
町長	何か起きると文科省は調査が多い。調査のための調査になっていないか。上から下へ伝えて報告させるような形で、現場としては本当はもっと余裕を持った協力をしたいんだろうけども。
総務課長	文科省、県教委からは条例化しなさいというような通達がでていますか。
中学校長	通達は無いと思います。単町ではなくて、7町村でいろんな場を設定して共同でやろうというところから出たものなので、各町村で条例化しておく方が統一した動きがしやすいのではないかと考えていました。
教育長	参考にさせていただきます。教育委員さん、学校長さんから意見はありませんか。
小学校長	特に町長にという訳ではありませんが、玄関前で子どもの様子を見てみると、あいさつをしない子どもが多いという気がしています。あいさつをしても横を向く子もいます。もう一つは姿勢が定まっていないので、学力向上のためにも職員皆で共通理解しながら指導していきます。
	ICTは、町長の気持ちは分かりますが、ICTを使うための授業をする先生が増えている。効果的に使えばとても良い機器ですが、逆に教育するのに悪い影響を与える部分が最近出てきている話を聞きます。効果的に使う事を研修していきたいと思います。
	職員会議で、国語辞典を揃えて欲しいと話がありました。あるけども古くなっていたり人数分無い状態です。現代っ子は、タブレットとかで調べるのですが、やはり辞典を使っていくことも学習方法の一つとして身に付けさせていかなくてはいけないので、図書費もいただいているので揃えていくように話をしています。
町長	保育園では、あいさつはどうか。
副園長	今年度、特に年長さんは、あいさつをしようと目標に決めています。保育士が意識すると子ども達もあいさつをしてくれる子が多いと思います。姿勢が定まっていないことですが、保育園では集中できるとか意欲を持って何かをするためには、体をつくっておくことが大事なので、体力づくりにツリーハウスとか自然を使った体づくりは大事で力を入れたいと思っています。

最近は、途中入所が多くなって1才になってから入ってこられる方も多いです。UIターン者の影響で今年度4月以降にも急きょ入られる方も多く、受け入れるだけの保育士の数が揃っている年齢は良いのですが、小さい子に関しては保育士の数が整わなくて、希望の園ではない分園を勧めることもあります。メディアに関しては、家庭でメディア依存とかメディア漬けになっている家庭が多いので、ノーメディアデイをつくって行けば良いと思います。その日には、家族皆で触れ合いの時間をつくる必要がありますが、保育園だけでその取組みは難しいので、小学校も中学校も皆で取り組むことも大事だと思い、子ども支援連絡会議でも話を出しています。

中学教頭

日南中学校は雰囲気が良いと感じています。前の学校では、あいさつをしない学校で生徒も元気がありませんでした。朝だけでなく廊下ですれ違った時など教員から声をかけていきました。初めは小さな声でしたが、続けていくことで声が出るようになりました。日南中学校でも挨拶すると生徒も挨拶してくれますし、どんどん声をかけると生徒から声がかかってきます。心掛けていることは、学校が元気であることです。そのためには、生徒も教員も元気でないといけない。職員室も明るく元気に挨拶ができる職員室でないといけないし風通しの良い職員室でないといけないと思います。

学力向上が課題で、それを先生方は感じています。学力向上戦略委員会では、毎週、家庭教育をどう定着させていくか順序立てて頑張っていこうという日南中学校のスタイルを作っていこうとしています。職員会でもそういう話が出ています。直ぐには結果が出ないかもしれませんが、教員の気持ちがそこに向かって一つになっていこうということで動いています。

中学校長

中学校では、挨拶はできる方かなと思いますが、そこは繋げていかないといけないので、模範になるようにと話しています。

保育園からメンバーは固定しているので、人間関係とか友達関係が、ちょっとなあという所もあります。当たり前と思う事が当たり前にならなったり、知らなかったり、そういう事をしっかり教えながら人間関係を良い具合に頑張っていきたいです。そのために自尊感情とか成功体験とか積み重ねていって自信を持たせてやるしかない。今、修学旅行や大山で経験したので、連休明けに全校集会で子ども達に返していきながら、良かったぞと話そうと思います。明るい学校にしていきたいと思います。

次長

予習復習のことで、学校では授業の後に今日やった事のまとめをして、次はどんなことをするかというのを予告して授業を終わります。今日復習するのは、ここだからこの問題をやって来るようにとか、

ここをもう一回読んでおきなさいとか。予習も次の時間は、このプリントをするから目を通して出来るところはしておくようにとか。具体的に予習復習の指示は出されているはずですが、実際出来ているかという教員の力量の部分があるので、教員は研修をしていかなければなりません。ただ単に勉強してこいということで終わっているわけではありません。

日南の小中学生がちょっとハンデになるのは、高校生の姿とか大学生の姿、普通の大人の姿が見えないですね。パセオ前からバスに乗って家に帰るまでに見ることがないです。それをうめるためには、例えば2年生の職場体験の前に実際に日南町で働いておられる方に来てもらって話を聞く、高校3年生に来てもらって中学2年生に対して高校生活とか勉強のこの話を聞く、京都大学に修学旅行で行きますが2年生で島根大学に行って大学の様子を体験させる等、場を捉えて仕組んでいかないといけないと思います。そこら辺は学校が工夫することだと思います。

家庭教育推進員

I C T学習について。町長が反転学習のことを仰られますが、反転学習は誰もがバラバラな捉えをしています。町長の反転学習のイメージをお聞きしたいと思います。私は、今色んなハンデがあるけども反転学習というのは、I C Tと絡めて使うと教員は大変な部分があるかもしれませんが、きっとすごい力がだせるようなものに繋がって行くのではないかなと思います。

小学生は声をかけてもらいたいと思っています。活躍する場所を与えることが必要だと思います。

熊本地震の被災者対応をしている方と話をすると、住民対応は、その中の人の所にリーダーをつくっていかないと、自分達の生活の事だから、外部の者が支持してもなかなか通らない。私達教員がやらなくてはならないことは、リーダー性、子ども達の中で解決できる力が大人になっても必要だと話しました。2040年、日南町がなくなっていることにならないように子どもを育てないといけないと思います。

町長

反転学習について。アイパッドを持って帰らせて予習に使ったり、授業の中で論議する力を育てたい。日本人は論理性に欠ける、議論することが弱いんです。学科によって違うので、いろんな方法があると思いますが、家庭の中で学習をしてきて学校の授業で子どもが子どもに教え合うとか。日南町版の反転学習をつくる、通学バスの中でタブレットを使って学習する、そういう学校になればすごいなと思います。

教育長

以上を持って第1回総合教育会議は終了します。

会議の経過を記載し、相違ないことを証するためにここに署名する。

日南町教育委員会教育委員